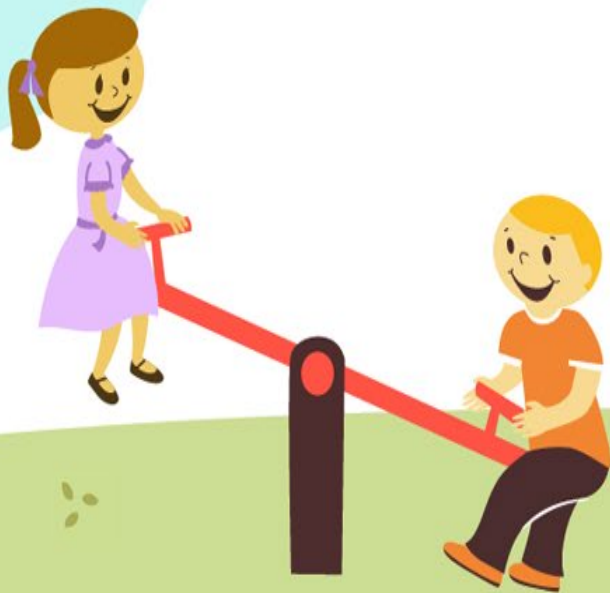


# 困難事例（事例検討）

人間と動物の医療福祉を豊かにするための研修事業



# 事例紹介

患者：A氏、男性

- ・ 年齢            70歳代後半
- ・ 病名            中枢性副腎機能低下症・慢性心不全・COPD
- ・ 既往歴        脳梗塞、高血圧症
- ・ 訪問看護サービス利用までの経過  
30年以上前に、副腎機能不全症と診断され、ステロイドの服用が開始となった。高齢となり、慢性心不全COPD・高血圧などの既往もあり、確実な服用ができておらず入退院を繰り返すようになった。包括支援センターの担当者より確実な服薬管理目的で訪問看護の依頼あり、訪問看護が開始となった。

# 事例紹介

- ・ ADL 自立・室外では一本杖使用・車を運転する
- ・ 家族構成 本人（独居）、妻（50歳代で他界）  
長女（市外）、長男夫婦（市内）
- ・ 生活歴 製造業の会社を立ち上げ社長をしていた。妻を若くして病気で亡くした後は、会社を長男に譲って隠居生活をしている。元来、動物好きで、妻が亡くなったさみしさもあり、室内犬4頭を飼って、暮らしている。

# 事例紹介

- ・ 介護保険                      介護認定無し
- ・ フォーマルサービス
  - 訪問看護（医療保険 週1回）
  - 訪問介護（総合事業 週2回）
  - 在宅薬剤指導（居宅療養管理指導 週1回）
- ・ インフォーマルサービス
  - 長女（仕事に余裕があれば週に1～2回帰宅）
  - 長男夫婦（最近は、仲違いして連絡を取ってない）

# A氏の犬への思い

犬が大好きで、室内犬を4頭飼っている。



犬の世話が  
あるから入院  
はできん。

寝るときは一緒に  
寝るんじゃ。

こんなん(犬たち)  
がいるから、自分  
も生きていけるん  
じゃ。

# A氏の目標とする生活

犬の世話ができて、犬に囲まれながら自宅での生活が継続できる。



# 普段のペット飼育状況

犬の世話をするのが生きがい。犬に対する愛情はあるが、自己流の飼い方をしている。犬の食事は、A氏が食べるものと同じものを与えるのでよく太っている（生活習慣病？）。犬の体、特に口や歯、肛門あたりの状態から世話ができていないことが見て取れる状況であった。室内も衛生的ではない状況。また、犬が病気やけがをしても、受診行動はとらず、A氏自身で治癒させることができると思っている。そのため、1頭は骨折で動けず寝たきりになっていた。もう1頭は、口から泡をだし、呼吸が荒く末期状態であった。

# ある日、訪問看護に行ってみたら

玄関で声掛けをするが、犬の鳴き声だけでA氏からの返事がない。居間まで上がってみると、A氏はソファに裸で横たわっており、意識朦朧状態。A氏と犬は排泄物で汚れてしまっており、部屋中も便や尿で足の踏み場がない状況。救急要請し診察の結果、慢性硬膜下血腫の診断で入院となった。

# この事例をもとに、 すこし考えてみましょう!!

このような状況になる  
まで、A氏が受診しな  
かったのはなぜ??

A氏入院後、  
犬たちの行方は??



どのような支援があれば  
このような事態にならな  
かったのだろうか??

# A氏のその後

- A氏は、急性期の治療を終え、現在は回復期リハビリ病棟で、自宅退院をしたいとの一心で、リハビリにがんばっている。
- 回復期リハビリ病棟で、A氏・長女さんを交えて今後の方針についてカンファレンスを行った。
- A氏は、今すぐにでも犬が待っている自宅に帰りたいという気持ちが強い。しかし、転倒の危険性や、認知機能の低下から、独居生活は困難であるという事で、長女さんは、介護保険の申請をおこない、施設入所を希望された。(A氏の同意は得られていない状況)
- 回復期リハビリ病院を退院後、入所を予定している有料老人ホームについての情報⇒A氏の自宅と同じ市内にあり、犬1匹であれば本人が世話をすることを条件に、飼うことが出来るという話ができている。

# ワンちゃん達のその後

・犬種：4匹ともヨークシャー・テリア

ラテ(コーヒーのラテ)：メス 10歳 骨折(よく吠える)

ラブ :メス 8歳

ドル :オス 7歳

ラン(花の蘭) :メス 2歳 心不全

- ・A氏の入院後、長男さん夫婦・長女さんが交代で実家に帰り、犬のお世話をしている。誰か飼い主が見つければ譲りたい気持ちはやまやまだけど、「お父さんが帰った時に悲しむといけないから」とお世話を続けられている。
- ・残念ながら、A氏入院後、ラテとランは、亡くなったそうです。